

SUMH News Letter

No. 47

暦の上では春。春一番が吹き、梅もほころび始める今日この頃、みなさま如何お過ごしでしょうか。今号は、クラウドファンディングによる車輛購入、2016 年暮れに行ったスタディツアーの報告、SUMH Cambodia 便りをお届けします。

目 次

- I カンボジアの地方病院へ巡回車輛で
「SUMH 車輛購入」 SUMH 理事 手林佳正
“SUMH CAR”
SUMH Cambodia 代表 Tey Pisal
 - II 2016 年 12 月スタディツアー報告
「刺激と気付きのシャムリアップ五日間」
NPO 法人リトルポケット 工藤真士
 - III SUMH Cambodia からの便り
“Key Person Meeting”
SUMH Cambodia Krouch Vannak
- 編集後記 宮本 圭

I カンボジアの地方病院へ走る、SUMH 巡回車輛

SUMH はより広い地域に精神保健サービス（診療）を届けるため、クラウドファンディングで車輛購入のプロジェクトに挑戦し、頂いたご寄付で 2016 年 12 月無事車輛を購入しました。車輛購入にまつわるエピソードを交えながらの購入プロセスと、車輛購入後の様子を現地代表 Mr.Pisal から報告いたします。



苦勞の末、やっと購入したピックアップトラック

「SUMH 車輛購入」 SUMH 理事 手林佳正

SUMH は、また 4 駆を持てることになった。若い支援者の提案、クラウドファンディングにみんなで力を合わせて呼びかけたところ、ついに集まった！

ぼくは年末にはスタディツアーのサポート役で出かける予定だったのと、前の駐在時にカンボジアでのクルマ購入経験があったので、その役割に手をあげた。

2016 年 12 月 22 日、早朝に家を出て、成田からの新たにできた直行便を初めて使いその日にプノンペン到着。モニボン通りに面して、プサータメイ（セントラルマーケット）の屋根を見下ろす Diamond Hotel にチェックイン。プノンペンではなぜかここを使ってしまう、もう 20 年。タクシーの運転手は、食べ物が安いからいいよね、という地域でもある。シティセンターなのに、市場が近いせいか、バスターミナル近くのせいか、下町的、たしかに。

31℃、でも乾季で空気は乾いている。首都の街並みは工事中の建物が多く、外国資本が入って高層化している印象。渋滞は、昔のバンコクよりひどくなっている！



プノンペン市内の建築ラッシュ

建築ラッシュのプノンペン

さて首都では、まずは中古車市場を在住の知人の同伴で回る。かつてそうであったワットプノンの南、鉄道駅の東の公園の公園沿いには中古車が道路沿いに電話番号の記載とともに置いてある。関心があれば呼び出してくれ、というわけだ。洗車などしてあってそれなりにきれいに展示されている。今回気づいたのはその周囲に店舗を持つ中古車屋がすでに何軒もできていること。予算と条件を満たすクルマにはなかなか出合わない。もう 5000 ドルあれば、結構いいのが手に入るのに。

それでもなんとか、一台と出会った。友人もその運転をしているカンボジア人運転手もこれなら、と賛成してくれた。友人の自宅へ移動して交渉、半額をその場で支払い、残りはシュムリアップまで持参してもらいクルマを受け取る時に支払うことにする。ただ、これが後でちょっとした事件になるのだが・・・

その後、JICA 事務所で国際 NGO 登録について情報を得てすぐ、新たに引っ越した保健省で旧知のソパル精神保健局長と会う。シュムリアップで精神保健の研究を準備中というアメリカの大学人と同席の会話。新しい資料や政策などは後で送るね、と言われたけど、2ヶ月経った今も未着。まあこういうのがカンボジアだからね。

スタディツアーのアシストも今回の役割なので、そちらも進めるためにシュムリアップへ移動。プノンペン空港ロビーで、日本から到着したばかりの今回リーダー役の連れ合いと打ち合わせ通り落ち合うことができた。シュムリアップでは、現地スタッフと調整、州保健局長、副局長と面談、ツアー中の食事予約などを行い、ついでに早朝のシュムリアップ川沿いで散歩と探鳥や、空いた時間にはプレクトアールで探鳥、トンレサップ湖クルーズ、アンコール国立

博物館などにも足を伸ばしてみる。

楽しいカンボジアの食べものと飲み物は、この季節の果物ドラゴンフルーツ、定番の喫茶カフェダッコー、ご存じアンコールビアー、朝の麺類と言えばクィティオ、短いうどん炒め、パパイヤサラダ、豚肉乗せごはん“バーイサッチェル”、マンゴージュース、スイカジュース、などなど。



クィティオ



ジャックフルーツ売り

スタディツアーの内容や参加者の様子などは別に報告があるので略して、その後のことを。終了して皆を送り出した後、クルマ購入と国際 NGO 登録手続きなどに入る。

なぜ、もう一度クルマ購入？と思われるでしょう！じつはプノンペンで購入したクルマは 4WD じゃなかった、ジャーン！トヨタ RAV4 なので、四駆と決めてかかっていたら、アメリカ製の 2WD ということがクルマを受け取る段階で判明したのだった。契約上、受け取りをホゴにはできない。事前の調べで、カンボジア人職員からシュムリアップの中古車市場ではいいものはないと言われていたが、ガンバッで転売と購入に挑戦することになった。

本部から、若干の予算の上乗せの了解も取れて、なんとか見つけた。シュムリアップにも中古車店が育ってきていた。

国際 NGO 登録については、汚職蔓延という情報が各所からあり、苦慮。ところが、州保健局を訪問して新しい局長に挨拶に伺った折、その話題になったときに、局長がナント「副局長は外務大臣の妹だよ！」というではありませんか！その場に登場した副局長は某所へ長電話。SUMH Cambodia 代表ピサル氏によると、とんとん拍子に手続きは進みましたとき。

こうしてぼくの役割を終え、シアヌークビルへ飛んで、ロン島へ渡り、魚釣りの日を過ごしてきた。



“SUMH CAR”

SUMH Cambodia representative, Tey Pisal

On behalf of the SUMH Cambodia I would like to say thank you so much for all Japanese Donors.

About the car, it is a great gift that I cannot say how kind it is from all Donors. We used to ask for help to other Donors and many NGOs for helping us a car, so we would be easy to travel to work at the rural area. During we did not have a car we could not finish our plan as prefer. In the rural area, there are many mental patients waiting for us to help them through consultation, home visit, and key person meeting. Because the most of Cambodian does not understand what is mental illness.

The car is helpful for finishing our work as we prefer and staying close with mental patient and families.



地方にて SUMH スタッフ Mr. Vannak と車輛

（以下、要約）

SUMH カンボジアを代表してご寄付下さったみなさまに心より感謝申し上げます。

今回の車輛購入は私たちにとって本当に大きな贈り物です。これまでは何とか他の団体などの助けを得て活動していましたが、これで苦勞なく、地方へ出かけることができるようになりました。カンボジアの地方には精神疾患を抱えながらも知識がないためそのままになっており、SUMH が支援する診療や訪問(ケア)、キーパーソンミーティングを待っている人々がたくさんいます。

新しい車は私たちが活動をきちんと行い、精神疾患患者とその家族のための時間を持つことにとても役立っています。

Ⅱ 2016 年 12 月スタディツアー（ST）報告

2016 年 12 月 27 日（火）～31 日（土）までの四泊五日で、6 名の参加者を迎えて ST を行いました。まず、ツアーの報告です。

一日目：12 月 27 日（火）

午前 10 時、ホテル集合後、オリエンテーション、そして、シェムリアップ・リフェラル病院の視察と市街地の SUMH のサービス利用者を訪問

二日目：12 月 28 日（水）

プノンバケン山のすぐそばの寺院の治療僧とアンコールワット近くの霊媒師を訪ね、伝統治療を体験。

三日目：12 月 29 日（木）

アンコールチム保健区内の寺院で行われるキーパーソンミーティングへ参加。その後、利用者訪問。

四日目：12 月 30 日（金）

終日、アンコールワット遺跡群の観光。午前 4 時、朝日を拝みに出かけたが、朝日は見られず、残念！



アンコールワット境内で全員そろって

最終五日目：12 月 31 日（金）

カンボジア伝統織物研究所 Institute of Khmer Traditional Textile(IKTT)の森本喜久雄氏を「伝統の森」に訪ねた。（報告：宮本）

次は、ツアー参加者から寄せて頂いた感想です。

「刺激と気付きのシェムリアップ五日間」

NP0 リトルポケット・ソーシャルワーカー
工藤真士

私は精神障害を持つ方たちの精神病院からの退院支援や地域生活支援をしており、カンボジアでの精

神保健の状況について実際に見て学びたいと思い参加させて頂きました。また、学生の頃から国際協力にも関心があり、精神保健支援をするNGOがどんな活動を行なっているのかとても興味がありました。今回のツアーを通じて、最も嬉しかったのがSUMHさん所属の現地ソーシャルワーカーの方に実際に会えてお話できたことです。ソーシャルワーカーの役割や活動は、おそらく日本のそれとは随分違うのかもしれませんが、少なくとも私と同じ職種を職業としており、自国の精神保健福祉向上のために働いているのを知ることができたのは、その方達に負けない様に私も働きたいと思う刺激になりました。

実際に当事者・家族の居住地へ訪問させてもらったのも貴重な経験でした。数組のご家族しかお会いしていないので一概には言えませんが、日本に比べると、当事者の方とその家族、同じコミュニティに住む方の距離がとても近いなと思いました。当事者の方が病気を持っているからと言って距離を置くような感じはなくて、病気も一つの特徴と捉えて一緒に暮らすだけの懐の深さを感じました。ただ、現地スタッフの方から、家族に鎖に繋がれている当事者の写真など見せてもらったので、私が良いなと感じたコミュニティの強さはもしかしたら一部なのかもしれませんが、それでも私の職場で出会う（殆どは東京の方ですが）当事者・家族との繋がりとは違う物を感じました。ツアーと一緒に参加した方によると私が感じた家族の繋がりとは昔の古き良き日本の村を見ているように仰っていたので、今後カンボジアの経済発展が更に進み人が都市部に移動しても、現代の日本のようにならず、家族・地域との繋がりを大事にする社会であって欲しいなと思いました。

最後に、ツアーコーディネーターの方がお話しくださった「国際協力をしたいなら、自分の中に色々なチャンネルを持っていた方が良い」という言葉が印象的でした。専門職としての知識・技術は持っているのは最低限の条件で、それに加えて自分のあらゆる経験や知識を役立てなければいけない。国際協力の現場で活躍されてきた方々のお話はとても勉強になりました。また、その他の参加者も、素敵なバックグラウンドを持つ人ばかりでとても楽しかったです。とても充実したツアーでした。参加させて頂きありがとうございました。



聖水を浴びる

「精神医療、途上国における人とのつながり、伝統医療から学ぶ」

千葉大学看護学部4年 桑原春佳

私はこのツアーで初めて途上国に足を踏み入れました。そして、ツアーを通して、様々なカルチャーショックを受けました。

私がショックを受けたことのまず一つ目は、患者が精神科の診療を受ける環境が想像以上に整っていないということです。シェムリアップでは、州病院に精神科医が2人で、診療日も時間も限られている状況でした。病院から離れた所に住んでいる人や、医療費も払えないような貧しい人は診療を受けることが困難になっている現状で、在宅で暮らしている患者が手足を鎖で繋がれているケースもあるとお聞きし、衝撃を受けました。しかし、このように精神疾患を抱える患者が適切な医療を受けることが出来ないという現状は、日本でも同じことが言える部分もあるのではないかと顧みる機会にもなりました。

二つ目は、伝統治療が今もなお息づいていることです。現地の住民で、病院に行っても治らなかった場合など、寺院の僧侶や霊媒師などに治してもらいに来ている方もいらっしゃいました。私は、霊媒師の方に肩こりを無くす祈祷や、国家試験に合格する祈祷をして頂くという貴重な経験をさせてもらいました。現地の住民にとって、この伝統治療はこころの支えとして重要な役割を果たしているのだと感じました。



相談場面

三つ目は、現地住民の人との繋がりやの深さです。現地の精神疾患患者の家庭訪問に同行した際、隣近所の住民が気にかけていたり、家族だけでなく姪も患者の世話をしに来ていたりしていました。核家族化、地域の繋がりやの希薄化が進む日本ではこの「人との繋がりやの深さ」を感じにくくなっていると思います。また、日本では精神疾患患者の長期入院が問題になっており、実際に私は実習で何十年も入院をされている方を受け持つ機会がありました。地域の住民や親族の支えがあることで在宅での療養が可能になっている実際を見て、人との繋がりやの大切さを現地の方から改めて学ばせていただきました。

ツアー全体を通して、SUMH は、病院から離れた地域にも家庭訪問に向かう、伝統治療の考え方を受け止め尊重する関わりをするなど、現地の医療の現状を熟知し、文化や価値観を尊重し、住民のニーズに合った活動をしているからこそ現地住民に必要とされる存在であるのだと感じました。私は 4 月から保健師として働く予定です。日本国内においても様々な地域の特性や文化の多様性があると思います。これから、ツアーで学んだことを活かして、相手の背景を知り、ニーズを見極め、相手に必要とされるような活動をしていきたいと思っています。大変充実した貴重な機会をくださった SUMH の皆様、現地の皆様に感謝申し上げます。

「スタディツアーで学んだこと」

千葉大学看護学部看護学科 3 年 長谷部美波

これまで海外には何度か行ったことがありましたが、カンボジアを訪れるのは初めてでした。さらに、自分の専門分野（医療・看護）の勉強をするために海

外へ渡航するのも初めてでした。今回のスタディツアーでは、カンボジアの医療の仕組みや現地の人たちの生活を垣間見ることができましたし、住民のみなさんが何に重きをおいて生活をしているのか、彼らがどんな保健行動をとっているのか、ということについて知ることができました。これらのことが私にとっては最も興味深かく、大きな収穫となりました。

カンボジアでは、health center を最下位の医療機関とする保健医療のシステムが構築されていました。しかし、現地の人たちが医療機関を受診するのは容易ではなく、貧困問題や、住民が移動手段を持ち得ていないといった問題を抱えていることを知りました。日本でいう保健師の役割や行政のアプローチという機能もほとんど未確立でした。

保健医療以上に現地の住民が頼っているものがありました。それは寺院にお坊さんを訪ねたり、霊媒師のもとへ出向くことです。自分や家族が怪我をしたり、病気になったときはお坊さんや霊媒師に治してもらうということが現地では一般的で、寺院に家族と住み込み、長期間の治療を受けているという人もいました。それでも良くならない場合、現地の人たちは医療機関を受診するそうです。現在の日本との大きな違いを知りました。

精神疾患を抱えている患者のもとも訪れました。どこの家庭でも家族や近所の人たちがこころよく出迎えてくれました。日本で薄れている家族や近所とのつながりがとても深く、病気の家族を支える力がとても強いと感じました。これは、療養の環境としても素晴らしいものだと思います。この、現地の強みである「周囲とのつながり」をさらに強化しながら、医療機関を受診することが困難な人たちにも保健医療の手が届くようシステムを構築していくことが大切だと実感しました。



訪問時の光景

III SUMH Cambodia からの便り

“Key Person Meeting” SUMH Cambodia Krouch Vannak

After I worked for SUMH about 2 years ago, I got many experiences from my work. I understood very much what mental illness is.

SUMH is a great Non-government NGOs in Cambodia that working for mental health. There are many activities that SUMH is working in the center and rural areas. Each activity is so helpful to mental patient and their families. But there still are many rural areas that SUMH cannot go to work, because of SUMH fund are limit.

Key person meeting is one of the great activities that I like. After SUMH Cambodia got a car from Japanese Donors it is helping my work very much like going to join key person meeting at Health center in rural area that is very far and the road is also broken. Sometime, I was sad when patients asked for help, but we could not go (SUMH did not have car). I went to join key person meeting with 3 health centers this February in 2017 with a new car. The participants were very welcome and they were happy to get mental health knowledge. They said we should go to teach them more about mental lesson that 1 time a year is not enough for them. (an omission of a middle part)

There are a few rehabilitation center and training center for mental health in Cambodia. The mental health service does not meet the need from Cambodia people, so we have a lot of work to do.

(以下、要約)

私は SUMH での 2 年間で多くの経験をし、精神疾患について学んできました。

SUMH がリハビリテーションセンターや地方で行う活動は精神疾患を持つ患者と家族にとっても役立っていますが、サービスを届けられない地域もまだ多くあります。

私が好きな SUMH の活動の一つがキーパーソンミーティングです。家族から支援を求められても車輦がないために支援ができない時には悲しい思いをしたこともありましたが、2017 年 2 月は新しい車輦で 3 か所のヘルスセンターのキーパーソンミーティングに行くことができました。参加者は喜んで精神

保健について学んでいます。(中略)

現在、カンボジアには、精神保健のためのリハビリテーションセンターやトレーニング・センターはわずかしかありません。まだまだメンタルヘルス・サービスは住民のニーズを満たせていないため、私たちがしなければならない仕事は多くあります。



編集後記

現地からの声をお届けしました。如何だったでしょうか。これからも現地の活動の様子、カンボジアの人々の生き生きとした生活などお伝えします。

担当 宮本 圭

SUMH の会員として、また寄付金によって一緒に途上国の精神保健を支えてください。

カンボジアの患者さんの笑顔を思い浮かべ、当法人にご寄付頂けますようよろしくお願い申し上げます。

【年会費】一般 10,000 円 賛助・学生 3000 円

【会費・寄付金の振込先】

銀行振り込みの場合

銀行名: 楽天銀行 第二営業支店(支店番号 252)

口座名: 特定非営利活動法人 途上国の精神保健を支えるネットワーク

口座番号: 普通 7385345

郵便振替の場合

加入者名: 途上国の精神保健を支えるネットワーク

口座番号: 00170-2-535294

郵便振替は振替用紙に、住所・氏名・Tel & Fax・E-mail・会費と寄付金のいずれか・SUMH へ一言を明記の上、お振り込み下さい。

SUMH 日本事務局

〒130-0013 東京都墨田区錦糸 3-5-1

錦糸町北口ビル

TEL 03-3812-0736

HP: <http://www.sumh.org>

Mail: info@sumh.org

SUMH Cambodia

Mental Health Rehabilitation Center,
in Siem Reap Provincial Hospital,
Mundol Moi, Siem Reap, Cambodia
Postal Address:

P.O.Box 93102 GPO Siem Reap Angkor, Cambodia